

南アルプス市立櫛形中学校 後期自己評価書

令和6年1月4日

校長	上 田 直 人	記入責任者	教頭 吉原 仁実
<p>校訓</p> <p>高登彼岸</p> <p>～高い理想の境地をめざし、その目的地に 登りつくよう懸命の努力を惜しむな～</p> <p>学校教育目標</p> <p>○確かな学力 ○豊かな心 ○健やかな体</p>			
<p>I 評価方法</p>			
<p>本校は、令和4年度より小中一貫校としてスタートした。学校評価については来年度以降、小中で回数及び実施時期の足並みを揃えることとし、今年度は今まで通り自己評価及び生徒アンケートを根拠資料に年2回学校評価を行うこととした。来年度は小中で年1回秋に実施するため、今年度は保護者アンケートを今回の後期1回のみ実施することにした。</p> <p>自己評価の資料として12月、教職員・生徒・保護者の3者に対して、アンケート形式によりWEB上で回答を得た。質問に対する回答選択肢は4段階になっている。</p> <p>A：とても、よく～している B：だいたい～している C：あまり～していない D：～していない</p> <p>A、Bは肯定的傾向のプラス評価であり、C、Dは否定的傾向のマイナス評価である。A、Bの区別とC、Dの区別は、回答者の回答時の状況等により変わることもあるため、厳密に区別するのではなく、プラス傾向、マイナス傾向とし、全体の傾向を評価した。</p> <p>具体的には、A・B・C・Dの選択肢を点数化した。A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点数を求めた。平均点数は次のような意味を持つ。</p> <p>○全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は2.5点以上になり4に近づいていく。 ○全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2.5未満になり1に近づいていく。</p> <p>なお、生徒、保護者のアンケート回答の選択肢として、E：わからない という選択肢があるが、これは点数には含めていない。</p>			

Ⅱ 全体評価

○教職員の自己評価、生徒アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも肯定的な評価が高い結果となった。

- ・教職員自己評価結果では、今年度前期は昨年度と経年比較して23の質問項目すべてにおいて評価の平均が3.0を上回った。本年度後期においても、22の質問項目において評価の平均が3.0を上回り、そのうち前期より評価ポイントが上回った項目数は7項目に及んだ。特に、③教職員間において報告・連絡・相談に努め協力的な取り組みをしている項目については、100%プラス評価であった。また、⑤校務分掌で任された業務に積極的に取り組んでいる項目に関しては、A回答は81.6%であり、前期評価を経て教職員が、学校教育目標の実現に向け、より一層連携し教育活動を行っていると考えられる。さらに、⑬諸問題（いじめ・不登校等）の早期発見・早期対応努めている項目においても、前期を大きく上回る平均数値となったことから、教職員が危機管理意識を高く持ち、常に生徒の状況を把握するよう積極的に意識し教育活動に携わっていることが顕著な数値として表れている。
- ・生徒アンケートでは、21の質問項目中、平均点数化できる19項目のうち、16項目で本年度前期同様に評価の平均が3.0を上回る結果であった。前期と比較しても大きく評価が変動する目立った項目はないなかで、⑨学校の授業が分かる項目の肯定的回答が75%から85.7%に上昇したことは、教職員が校内研を通して授業改善に取り組んでいる成果が少しずつ表れているのではないかと考察できる。
- ・保護者アンケートでは、16の質問項目中、平均点数化できる14項目のうち、13項目で評価の平均が2.5を上回る結果であった。そのうち、肯定的な評価の平均が3.0と高い項目数は半分以上の8項目となり、昨年度後期における項目より1項目減る結果となったが概ね肯定的な回答が多かった。

総括して、橿形中学校では学校教育目標の実現に向け、一人一人の教職員が、保護者の理解と協力の下、職務に真摯に向かいあい遂行してきたことで、2学期以降の学校教育活動全般において生徒に適切な指導が行われ、結果、生徒と保護者に肯定的に評価されていると考えられる。従って、本校の学校評価に係る総合的な評価は、PDCAサイクルが活かされた結果、良好な水準にあるといえる。

そのような中でも前期と比較したり、一つ一つの結果に目を向けてみたりすると、努力を要する項目がある。教職員、生徒、保護者のそれぞれのアンケートについて、次項で考察し課題を明らかにしていきたい。

Ⅲ アンケートごとの評価

教職員の自己評価アンケートについて

教職員の回答は平均の評価ポイントが2.5を下回るマイナス評価はなかったが、プラス評価の中でも評価の比較的低めな項目は以下の2つであった。

17「あなたは、学校の教育活動について、お便りやホームページを通して保護者や地域に広報していますか」

昨年度前期 平均点 2.9

昨年度後期 平均点 3.3

今年度前期 平均点 3.0

今年度後期 平均点 3.0

18「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか。」

昨年度前期 平均点 2.7

昨年度後期 平均点 3.2

今年度前期 平均点 3.0

今年度後期 平均点 2.9

【考察】

17「あなたは、学校の教育活動について、お便りやホームページを通して保護者や地域に広報していますか」の項目について、特に学校だよりによる広報活動は町内会の組ごとに回覧板方式により地域の方々にも閲覧してもらっているなど、昨年度以上に行っているが、学級通信など「意見欄」にあるように各教員の目標値まで発行されていない状況等もあり、数値として改善はされなかったと見られる。ただし、学級通信発行については、発行すること自体が目的にならないよう、職員が働き方を意識しつつ無理のない範囲で生徒や学校の様子を伝えていくことは、学校が家庭や地域から理解され協力をいただくために最も重要なことである。今年度も「学校だより」については、生徒の様子を昨年以上に取り入れた内容で月複数回発行してきたり、学年だより、各種たよりもそれぞれの分掌から定期的に発行されたりと取り組んでいるが、内容をさらに充実させていく必要があるかと思う。

HPの活用・広報については、学校だよりが発行時に更新されているが、「お知らせ」コーナーの充実を今後も検討していく。新しくなった体育館の床やLED照明により一層明るくなった体育館の紹介等を含め生徒の声を反映させる活用を検討していく。

18「地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか」については、昨年度に引き続き地域人材の活用を行っている。具体的には、いきいき教育人材の活用、職業講話、防災学習会、芸術鑑賞教室、通訳などに地域の方を活用している。さらに、今年度は半世紀ぶりの「応援歌復活」のために地域の方々と生徒会が交流をするなど、地域から協力や応援をいただくことができた。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、徐々に人材・施設の活用がコロナ禍以前のよ

うに戻りつつあるものの、施設訪問は未だに制限がある点から、高評価につながりにくい。そのような中でも家庭科教科において、保育実習が実施されたことは地域施設に感謝したい。今後、各学年、各教科の計画に沿って、さらには次年度の計画作成時に、地域の教育力をより多く活用していくことを職員に周知していく。

生徒の評価アンケートについて

生徒の回答は平均の評価ポイントが2.5を下回るマイナス評価はなかったが、プラス評価の中でも評価の比較的低い項目は以下の3つであった。

11 「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている」

昨年度前期	平均点 2.6
昨年度後期	平均点 2.7
今年度前期	平均点 2.6
今年度後期	平均点 2.7

12 「わたしは、家庭学習（宿題や自主学習、塾・家庭教師との勉強）をしている」

昨年度前期	平均点 2.9
昨年度後期	平均点 2.8
今年度前期	平均点 2.9
今年度後期	平均点 2.9

13 「わたしは、読書をしている」

昨年度前期	平均点 2.7
昨年度後期	平均点 2.8
今年度前期	平均点 2.7
今年度後期	平均点 2.6

【考察・改善策】

11 「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている」の項目については、「いつも伝えている」「伝えている」と回答した生徒は、今年度前期の54.8%から57.4%に増加したが、「伝えていない」というマイナス回答は今年度前期7.8%から8.6%にわずかながら増加した。今年度は校内研で積極的にICTを活用した授業と学びあいを取り入れた授業づくりを研究しているが、教員がさらに生徒の発言を引き出す授業づくりを継続していくことが必要である。また、教職員は小中一貫校の取組として行っているスリンプルプログラムの目的を理解し高い意識を持って取り組んでいるので、今後もスリンプルプログラムを取り入れた「くっしータイム」を継続しつつ、授業においても他と関わる機会を積極的に取り入れた授業づくりを工夫していくことが大切である。

12 「わたしは、家庭学習（宿題や自主学習、塾・家庭教師との勉強）をしている」の項目については、「よくしていない」「している」という肯定的な回答が前期の70.6%から74.7%に増加した。半面、家庭学習に対して十分行っていないマイナス回答が25%近く

に上ることから、本校においては全国学力把握調査からも明らかであるが依然として家庭学習への取組に課題がある。学校は、定期テスト前には、1週間の「テスト前学習集中期間」を設定し、さらに、学年生徒会を中心に学年ごとに家庭学習の取組を行っているが、家庭学習に対して消極的な生徒が一定数いることが見て取れる。今後もクロームブックを持ち帰るなかでドリルアプリ等に取り組みせるなど、一人一台端末の利用を家庭学習に積極的に活用するよう提示していく。

13「わたしは、読書をしている」の項目については、「よく読んでいる」「読んでいる」と回答した生徒が前期は58.4%であったが、後期は54.8%と低下した。全体的に読書への取組に対しては、生徒はマイナス傾向の回答をしている。教職員の85%が読書指導を積極的に行っていると回答した数値と、生徒の読書活動に対する数値が乖離していることは昨年度から変わらない状況である。これまで以上に生徒が実感できる読書推進活動について委員会活動や読書週間を機能させ検討していく。また落ち着いて読書をする貴重な機会となる火～金の10分間の朝読書については、教職員とともに読書をするなど範を示しながら継続をしていく。

保護者の評価アンケートについて

来年度から学校評価を年に1回としていく過程で、保護者アンケートは今年度後期のみ保護者の協力をいただいた。全体的に保護者の回答については肯定的な評価が高い中で、平均の評価ポイントが2.5を下回る評価項目が1つあり、以下の質問項目において考察を述べる。

9「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか」

昨年度後期 平均点 2.5

今年度後期 平均点 2.4

【考察・改善策】

これに関してアンケートの詳細を見ると「とてもそう思う」の割合が昨年度の13.3%から9.6%に、「そう思う」の割合が63.7%から61.4%になり、「わからない」と回答した割合が8.3%から12.7%になった。学校は、年度初めに家庭訪問、1、2学期末それぞれに三者懇談、学期ごとの学校開放及び授業参観、学園祭等の行事参観を設定しており、生徒の欠席連絡においては電話やグーグルフォームに状況の詳細記入も可能となっているが、アンケート結果から見ると、保護者が回答するにあたり学校の様子を見ることはできるが意見や感想をどこでどのように伝えたらよいかかわからない状況があると推測される。今後、さらに学校がより良い在り方を推進していくためにも、ICTを活用するなど、保護者の意見・感想等をいただく場の検討をしつつ、生徒・保護者・職員のためになる学校運営をしていく。

